

今、高齢者施設（サ高住）で暮らしています

7組 山本 哲照

第二章

4. 急性虫垂炎で3週間入院！

ところが、その約束をした翌日の9月29日早朝激しい腹痛に襲われた私は救急車で丹羽病院に搬送され、急性虫垂炎という診断で入院することになってしまいました。急性虫垂炎は昔は「盲腸炎」と言われていて、かかったらすぐ盲腸（虫垂）は切除するのが普通でした。盲腸（虫垂）は有っても無くてもいい臓器だと思われていたからなのですが、現代医学では切らずに抗生物質で治すのが普通になっているようで、私の場合も絶食して点滴を受けながら抗生物質を投与されるという治療を受けることになりました。私より後から同じ病名で入院してきた年若の人が私より先に退院していくのを横目で見ながら、自分が高齢で治癒力が劣っているのをしみじみ感じた3週間（9/29～10/20）の入院生活でした。

（但し、この入院生活の間に若い美人との束の間の交流という副産物がありました。これについては入院生活と合わせて稿を改めてこのWEB11に寄稿させていただきますから、ご用とお急ぎでない方はぜひお読みください。ご退屈はさせないことを保証します）

この降ってわいたような入院生活は後から考えると私のその後の生活に大きな影響を与えることになりました。コロナが猖獗を極めていた頃で他者との面会は厳しく禁じられたので、せっかく一緒に施設探しを始めたKさんにいろいろ聞きたいことはあっても聞く機会はありません。何よりも先日仮申し込みをしたココファンからは「今月（10月）中に1日でも入居したという形をとれば実際の入居は退院後でも何時でも構わないが、そうでなければ他の人に権利が譲られることになる」という通告を受けたとKさんから報告がありました。もっとほかの施設も回りたかったし「老人ホーム」での生活について実情を詳しく調べたかったのですが、全てができませんでした。結局この間にココファンとの話し合い、身元保証会社の選定等々、すべてKさんがやってくれました。ココファン自体は前述したように老人ホームとしては個室の面積が段違いに広いし、職員の質もよく、小田急線当田駅から徒歩数分、酒匂川が近く、スーパーやコンビニもすぐ近くにあります。歩いて5分の所にある「小田原アリーナ」

には筋トレや有酸素運動のできるジムがあります。入居に必要な費用については入所一時金は不要、毎月の経費も他の施設と比べて低い方です。この時点ではここよりよさそうな所は簡単には見つからないだろうと思えました。

10月20日にやっと退院して身元保証会社、引越業者、不動産会社などKさんが手配してくれた業者等と慌しく面会して段取りを打ち合わせ、2020年11月2日に介護付き有料老人ホーム「ココファンレジデンス小田原」に入居しました。

5. 介護付き有料老人ホームでの生活

こうしてほとんど予備知識や事前の心の準備も整わないままで施設での生活が始まりました。「介護付き有料老人ホーム」とは24時間スタッフが常駐し、掃除や洗濯など身の回りの世話、食事・入浴・排せつなどの介助サービスが受けられる介護施設です。入居する前の私のいわゆる「老人ホーム」に関する知識は今考えてみると全くお粗末なものでした。すなわち「生活支援が必要な人も自立している人も高齢者が共同生活をしていて、普段は自由にその建物から出入りができるアパートのようなもの」という程度の認識でした。つまり、自立している人にとっては普通の住居で気ままに暮らして「いざ」という時に介護や看護を受けられるものだと思っていたのです。ところが実際にこういう施設に入居している高齢者は殆どが今介護を必要としている人で自立している人はほんの数人。認知症の人もいます。出入口は認知症の人が勝手に出ていけないように常時ロックされていて、職員や常時出入りしている外注業者や取引業者は玄関の内外の壁に設置されているナンバープレートに暗証番号を入力すれば開閉ができるシステムになっています。自立入居者や訪問者などが出入りする時は事務室からリモコンで開閉することになっています。私が外に出るためには、事務室の窓口で外出する旨を告げ、私のフルネームが印刷されたネームプレートを渡されます。そして玄関で靴を履いたのを見計らって事務室でリモコンを操作してドアを開け、そこでやっと外に出ることができます。外出から戻ってきたときは、事務室から自分の顔を確認できる位置に立ちインターホンを押します。すると事務室から私の姿を目視で確認してリモコンでドアを開けてくれ、中に入ることができます。そして事務室の窓口でネームプレートを返却して外出に関する一連の手続きが終了するわけです。

今になって冷静に判断すればこういう施設ではこのシステムは当然であって、誰でも勝手気ままに出入りできるようではかえって良好な介護施設とは言えないことはよく理解しています。

ただ、前述した通り「老人ホームでの生活」を自分に都合のいいように思いこんでいた私にはこの「外出の不自由さ」がいつも心に引っかかり、次第に部屋に引きこもるようになっていきました。

6. 旧友根岸俊郎君との再会と別れ

この施設で小学校時代の同級生との思いがけない再会がありました。小田高11期生の根岸俊郎君です。根岸君とは城内小学校で1年生から3年生まで同じ4組で机を並べて学びました。4年生の時に組替えがあつて根岸君とは別のクラスになり、それ以後は城山中学校でも小田原高校でも同じクラスになることはありませんでしたが、顔を合わせれば何時でも親しくしていました。彼は**身体が大きくスポーツ万能で学業成績も優秀**でした。この施設には私より10日ほど早く入居していて、そのことは私は丹羽病院入院中に同期生の中の情報交換で知っていましたから、すぐに会いに行きました。これより以前で一番最後に彼と会ったのは2017年11月16日でしたがその時は夫人と一緒に普通に歩いて会話をしていました。その後**自宅で転倒して骨折**。以後は車椅子生活になったということは伝聞で承知していました。久しぶりに会った彼は車椅子に座って食堂のテーブルに向かっています。言葉を発する時に若干不自由な様子でしたが**頭脳は明晰、こちらの言うことも正しく理解して会話**できました。何よりも**驚いたのは彼の記憶力**です。小学校1年生から3年生まで同じクラスだったこと、その時のクラスメートの名前、4年生になった時に別の組になって以来中学校・高校では一度も同じ組にはならなかったこと、しかし彼は中学校3年間の組や担任教師、親しかった友などのことは全て正確に記憶していたので私も彼と昔話をするのが楽しみでの居室などを訪れました。その後面会に来た彼の夫人とも話をするようになり、夫人から果物などを何度か差し入れて頂いたりしました。しかし幼友達根岸俊郎君もついに力尽きて2021年3月29日にこの世を去ってしまいました。

7. ココファンを退去、サ高住に移る

前述したように自立者が外出することは禁じられてはいませんが、手順としては、出かける時

1. 事務室に申し出て携行するための名札を受け取る。
2. 玄関で靴を履いたのを見届けた職員が事務室でリモコンを操作してドアを開ける。

帰宅した時

1. 玄関の外壁に取り付けられたチャイムを鳴らし、事務室から顔を確認した職員がリモコンでドアを開ける。

2. 事務室で帰宅した旨を告げ、名札を返す。

簡単な手順ですが私にとっては何とも煩わしく、極言すれば「自尊心を傷つけられる」ように感じられました。

また施設の所在地が蓮正寺で生まれた時から慣れ親しんだ小田原の旧市内へ行くためには電車・バスなどの公共交通機関を利用しなければなりません。電車は小田急線で最寄り駅は蛍田駅。施設から駅までは徒歩5、6分でしたから歩くことになれた私には苦にはなりませんが、運行時間が決められた電車に乗らなければ好きな所に行くことができないのが嫌でした。それらの事がすべてマイナス要因になってだんだん外出することが億劫になってしまい、自室に閉じこもるようになっていきました。2020年9月中旬まで週に3、4日通っていたフィットネスジムも退会したので運動する機会も失われました。入居する前は近くにある「小田原アリーナ」の施設でトレーニングは続けられると思っていたのですが、コロナ禍で施設は閉鎖しており、当分再開しそうもありません。その生活が4か月ほど続き体重は徐々に増加、折角絞った肉体も鏡で見たくないほどみっともなくなってきました。居室の窓から公園で子供や保護者らが自由に動き回って楽しそうにしているのを眺めてはストレスを感じる毎日でした。そんなある日思いがけない形で転機が訪れました。

親類・知人に代わって身元保証を代行する会社と契約していたのですが、そこからの請求書に契約した覚えのない「金銭保証」という項目があり、うっかりしている間に3か月分も口座から引き落とされていました。気付いてすぐに連絡したところ先方のミスだとわかり、2021年3月下旬に社長と係員それに紹介センターのKさんがココファンを訪れ私に謝罪しました。Kさん自身には全く責任はありませんが同行して来られて私にこの施設での生活など状況を聞いてくれたので、正直にストレスが溜まっていることを話しました。すると「山本さんには介護付きの老人ホームはまだ早すぎたのかもしれませんがね。久野のサ高住から空きが出たという連絡が入ったばかりです。見に行かれますか？」と聞かれ「お願いします！」と即答しました。そして3日後にKさんと共に「ライブリーハウス中銀小田原」（小田原市久野）を訪れました。そこは1981年10月から2007年2月まで亡母と一緒に住んでいた「小田原サニータウン」の目と鼻の先でした。

※「サ高住」というのは簡単に言うと「安否確認」と「生活相談」の提供が必須とされている高齢者向けの賃貸住宅で、介護サービスは運営主体や外部のサービス事業者と別に契約を結ぶことで受けることができます。食事の提供や

生活支援サービス等を提供している住宅もあります。認知症患者は受け入れていないので入居者の出入りに制限はありません。

その場でこの施設にお世話になることを決め、4月21日に「ココファンレジデンス小田原」を退去して「ライブリーハウス中銀小田原」に移ってきました。小田原駅から徒歩で20分。駅西口からのバスを利用すれば10分で着きます。久野川橋を左折して約100メートルの所にあります。2階建ての落ち着いた雰囲気の建物です。小田原市役所・小田原市立病院・スーパー「ヤオマサ」などが近く、暮らしやすい所です。



ライブリーハウス中銀小田原 正面



中庭

(次章に続く)